

東日本大震災被災者の社会的信頼性が睡眠状況の推移に与える影響

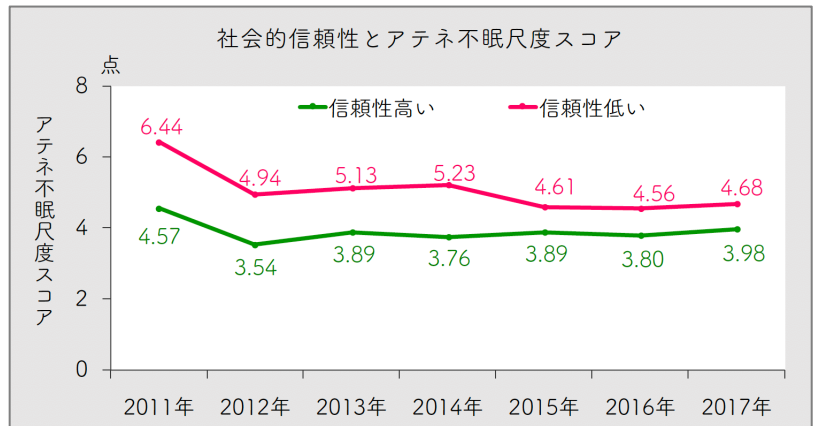
Social trust predicts sleep disorder at 6 years after the Great East Japan earthquake: data from a prospective cohort study
2020年 BMC Psychology 発表

社会的信頼性が低い被災者は、アテネ不眠尺度スコアが高い

先行研究では、近隣のソーシャルネットワークやソーシャルサポートが被災者のメンタルヘルスに影響することが報告されていました。しかし、これらの研究は災害後一時点での横断研究であったため、被害者の長期的なメンタルヘルスへの影響については明らかではありませんでした。

そこで本研究では、被災者健康調査のデータを用いて、被災直後の社会的信頼性が高い者と、低い者と震災後6年間の睡眠状況の推移に違いがあるかどうかを前向きコホート研究により検討しました。

その結果、社会的信頼性が高い者と比べ、低い者では震災後6年間のアテネ不眠尺度スコアが高く、メンタルヘルスの回復力が低い可能性が示唆されました。



研究データと解析対象者について

本研究は、宮城県石巻市雄勝・牡鹿地区の18歳以上の地域住民を対象に実施した被災者健康調査のデータを使用しました。2011年6月から8月、第1期被災者健康調査（自記式アンケート調査）を実施し、1,398名から有効回答が得られました。このうち、研究非同意者、社会的信頼性の質問に未回答の者を除外した1,293名を解析対象者としました。対象者について、2011年から2017年までの6年間の睡眠状況（アテネ不眠尺度スコア）を追跡しました。

社会的信頼について

第1期調査では、社会的信頼（まわりの人々は信頼できる）への回答として、「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」「どちらかといえばそう思わない」「全くそう思わない」の中から選択していただきました。回答に基づいて、対象者を「社会的信頼性が高い」と「社会的信頼性が低い」の2群に分類しました。

他のリスク要因の影響について

本研究では、社会的信頼性と睡眠状況の関連に影響を及ぼす可能性のある要因を考慮して結果を算出しています。具体的には、性別、年齢、居住形態、経済状況、ソーシャルネットワーク、心理的苦痛といった要因についてグループ間に偏りが無いように統計学的な処理を行いました。

研究の特徴と限界について

本研究の特徴として、①社会的信頼性による睡眠状況の推移を前向きコホート研究で検討している点、②欠損データを含む繰り返しデータの分析が可能な線形混合モデルを使用している点、③睡眠状況の評価は、妥当性あるアテネ不眠尺度スコアを使用している点が上げられます。一方、研究の限界としては①被災直後であったため、第1期調査における回答率が低いこと、②睡眠状況に影響する疾患既往歴が不明であることが上げられます。